

全国1718市町村の中から、移住先として中野市を選んでくれる人たちがいます。

彼らの言葉は、私たちが気付いていない地域の魅力に気付かせてくれます。豊かな自然、美しい山々、新鮮でおいしい野菜や果物、これはどれも「当たり前」ではないのです。首都圏とのアクセスもよく、買い物なども便利で暮らしやすい「ちょうどいい田舎」がここにあります。

私たちが地域の魅力を再発見し、家庭で親が子に伝え、一人ひとりが自分が住んでいるまちをもっと好きになれば、地域に活気が生まれるでしょう。そうすれば、移住者だけでなく、この地で生まれ育った若者が「地元に住み続けよう」「戻ってこよう」と思えるような、人を引き寄せる魅力あるまちになるはずです。

あなたが住んでいるまちはどんなまちですか。

そう聞かれたら、あなたはこう答えますか。

【特集】 ちょうどいい田舎
信州中野で暮らす 終わり





中川 岳二さん

かげやま なおひさ 影山 尚久さん

2017年12月24日に行われた「もくもくすくすくプレゼント」。17年に中野市で生まれた赤ちゃんたちに、中野市産の栗の木で作られた50個のクマのおもちゃがプレゼントされました。

この企画を発案し、中野市産の木のおもちゃを制作した「ティクジ」の二人にお話を聞きました。

木

材を使った作品を制作するときは、いろいろな特徴を考えて輸入材の木を使うことが多いです。

作品の展覧会や販売をしたとき「なんで、信州にはたくさんのお木があるのに地元の木を使わないの」と疑問の声をよく聞きます。これをきっかけに地元の木を使った「木育」の企画を考え始めました。

「子どもにも木のおもちゃで遊んでほしい」という思いから「もくもくすくすくプレゼント」を企画しました。木が育ち、材料として使えるようになるには、子どもが成長し、次の世代が生まれる時間と同じぐらいの時が必要です。

クマのおもちゃを受け取った赤ちゃんが大人になって「自分が生まれた年にももらったおもちゃだ」と時の流れを、木のぬくもりと共に思い返してもらえれば、うれしいと思っています。

今年も企画する予定ですので、お楽しみにしてください。

私たちの企画などを通して「国産の木材が使われていない」という現状を、知るきっかけになってほしいと感じています。家を建てる時や家具を選ぶとき「せっかくなら地元の木で作られたものを使いたい」とちよつとでも意識してもらえたら、国産の木ぬくもりが増えていくと思います。

市役所新庁舎にも、私たちの制作したベンチとキッズコーナーがあります。長野県生まれの木「カラマツ」で北信州産のものを使用しました。新庁舎の天井にも、同じカラマツを使った天井ルーバーがあります。

「信州の木の温かみがいいな」と感じた方は、私たちの作品でカラマツに触れてみてください。



市役所新庁舎のキッズコーナー



もくもくすくすくプレゼントの様子



市役所新庁舎にある休憩用ベンチ



ティクジ制作のおもちゃたち